

幸田千依

東京都生まれの画家。長崎で育つ。多摩美術大学卒業後、固定のアトリエをもたずに、国内外のさまざまな場所に滞在して制作するレジデンスプログラムへの参加活動で注目される。2017年、VOCA展大賞受賞。幸田は、完成した絵を展示するだけでなく、公開制作し、制作する過程を他人に見せることで、作品と人との出会いについて模索している。幸田の絵は、1枚の絵の中に、見上げる視点と見下ろす視点など、多くの視点が存在する特徴がある。これはものをさまざまな方向からよく見て知りたいという理由で取られている方法であり、視点からのイメージを組み合わせることで、絵の中だからこその世界を表現している。